

■高山彦九郎 尊王思想家。徳川幕府から朝廷への政権委譲を求めて旅続け、憤慨のあまり自刃した。“寛政の三奇人”。

たかやまひこくろう

義経千本桜・1747＝ 上野国新田郡細谷村(太田市)で、桓武天皇の流れをくむ秩父氏出の郷士高山彦八正教の次男に生まれる。

・・・・・・1749＝ 2歳：この頃、祖父貞正が隠居、新田高山氏から分家して高山姓となり、細谷高山氏の祖となる。

徳川吉宗没・1751＝ 4歳： 好古崇祖敬神思想が強く反体制的な一方、農家ながら学問を重んじる家柄のなか、
_祖父母の影響とともに、吉川神道や崎門派儒学に造詣が深く剣術にもたけた叔父の教えを受けて育ち、寺子屋で学んだ後、
・・・・・・1756＝ 9歳： 伊勢崎藩に赴いて、_国学や神道を学び、陽明学にも傾倒して行く。

宝暦事件・・1758＝11歳： 大式政治批判1759＝12歳： _「太平記」を読み、南朝の忠臣たちが志を遂げなかったを憤り、尊王の志を抱く。

大岡忠光没・1760＝13歳：

・・・・・・1762＝15歳：江戸に行き書籍を購入して帰る。

加賀千代句集1764＝17歳： *祖父あてに置手紙して家出し、上洛。三条大橋に臥して皇居を拝し、河野怒斎に師事、
蘭銭初輸入・1765＝18歳： 母が死去。
忠臣蔵大当り1766＝19歳： 家にいられなくなった反体制的な祖父も三男の養子先で死去して、帰郷。
明和事件・・1767＝20歳： _山陽道を通して菅茶山を訪ね、閑谷学校にも行く。以後、頻繁に諸国を回遊、次々と一流学者を訪ね、

・・・・・・1769＝22歳： この年、父が旅の途中、反体制を嫌う何者かに殺害される。
・・・・・・1770＝23歳： _江戸に出て細井平洲に入門。

田沼意次老中1772＝25歳： 大原騒動・・1773＝26歳： 赤城神社に参詣し、伊香保等で大島氏の系譜を調べる。以降、詳細な日記をかかさず、
解体新書・・1774＝27歳： 江戸から東海道を通って伊勢参り後、京都に出、さらに大坂から播磨道で出雲へ行く。
黄表紙始・・1775＝28歳： 北陸路経由で帰郷し、叔父とともに桐生の忍山温泉に行く。古河の熊沢蕃山の墓に詣で、江戸に出る。
雨月物語刊・1776＝29歳： 故郷のみたらい川で禊。小田原の柳井左京の墓に詣でる。
・・・・・・1777＝30歳： 祖叔父を追って甲州身延山に行き、帰郷後、江戸に出て細井平洲らと対談。帰郷し、赤城神社に参詣。
ヰッ船蝦夷来 1778＝31歳： 長女が誕生。以後、女子誕生の都度、男子誕生を求めて妾を変える。
源内獄中死・1779＝32歳： 江戸に滞在。
・・・・・・1780＝33歳： 次女が誕生。甲州街道経由で富士山に登り帰郷。_江戸に出、平洲の学塾に出入り。
・・・・・・1781＝34歳： 江戸に出て交遊。
天明大飢饉始1782＝35歳： 長男が誕生。中山道経由で_上洛して、公家らと交流し、
蘭学階梯・・1783＝36歳： *禁裏で節会を拝観、以後数回。亡祖父の神号を受け武州で祭礼。伊勢神宮参詣して上洛し、公家らと交流。
。浅間山噴火と利根川氾濫で惨状に陥った郷里の窮民救済に奔走、天明一揆にも参加し、
蝦夷初調査・1785＝38歳： 飢饉の惨状を記録する。三女が誕生。
田沼意次失脚1786＝39歳： 長く影響を受けてきた祖母が死去すると、3年間の服喪を実行。
郷里のその後もしばしば西遊、禁裏に入って幾度か節会を拝観するなど、堂上公卿との親交も強くなり、

初の横綱・・1789＝42歳： 喪屋を出て、江戸へ行き、前野良沢らと交わる。*尊号事件が起こると、公卿らと結託して薩摩藩を味方に
引き入れる計画をたて、

異学の禁・・1790＝43歳： 実兄が俗吏によって家族を虐待するのに耐えられず、_家庭解散し故郷を脱出、水戸で藤田幽谷・立原翠軒
と会い、石巻で宿願の後醍醐天皇碑を拝し、米沢で莅戸太華と論じた後、津軽を経て松前に渡る。帰途各地
の飢饉を記録し、林子平と会談後、天皇の新皇居遷宮を拝すべく急速上洛し、多くの公家らと交友。

混浴禁止・・1791＝44歳： _天皇の耳にも名が聞こえるまでになったが、仙洞御所を訪ねた後、林子平が拘引されて身の危険を感じる
とともに、島津氏への説得を行う役を担って九州に旅立ち、

ヲクスマン来日・ 1792＝45歳： 鹿児島から坊津まで至ったが、
松平定信引退1793＝46歳： *尊号事件の処理に怒り、久留米まで引返し、幽囚中の子平の死を追うように、憤慨のあまり自刃した。